

「第42回生鮮流通フォーラム」(パーソナル情報システム(株)主催)の2

た。

秀樹専務、常洋水産(株)

流通チャネルの多様化(水戸市)の大谷勉会長は、「水産市場の関東広域のあり方」について意

見交換。吉田会長は、豊洲市場への移転から7年が経過

## 市場の多角化経営など議論

生鮮流通フォーラム

2日目

### 妻副学長や吉田会長ら登壇

役会長らが参加するパネルディスカッションなどが行わ

入の減少、輸出の増加により食肉関係の電子商取引(EC)利用が大きく水産物の供給伸びていると指摘。卸売不足が発生している現状について説明し、物の価格上昇した。

率が高か、食料品と比較して高く、市場機能の強化や、ECによる県内の食品スーパー「かわねや」の運営や、大谷会長は、子会社による太陽光発電システムなど、太陽光発電システムの展開などについて説明。地元食材を使った製菓開発にも取り組む、地方卸売市場ならではの商品の付加価値向上に努めていると話した。

議論する(⑤)から、吉田会長(源波専務)の基盤技術の活用などが求められるようになる。と今後の展望を語った。基調講演のあと、築地丸魚(株)(横浜市)の源波た。

